

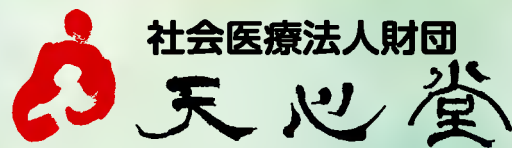
# ふるごの 赤ひげ



大分市吉野 臥龍梅

## 目次 contents

- |      |                                |    |                              |
|------|--------------------------------|----|------------------------------|
| P1~2 | 今後の医療と介護連携と<br>老人保健施設 陽光苑の担う役割 | P5 | 障害児デイサービスにおける<br>リハビリ農園の取り組み |
| P3   | MRI装置バージョンアップに関して              | P6 | 骨粗しょう症の予防                    |
| P4   | 第24回大分PEG・経腸栄養研究会              | P7 | 小児外来リハビリテーション<br>地域連携相談部     |



【天心堂の医療目標】 良質にして包括的な保健・医療・福祉を地域に提供する そして100年を超えて生きつづける医療を実践する



# 今後の医療と介護連携と 老人保健施設 陽光苑の担う役割

介護老人保健施設 陽光苑 事務長 鍛治矢 哲

令和元年11月20日から22日にて全国介護老人保健施設記念大会が大分県にて開催され、開催期間中の延べ人数は実に15,000人にも及ぶ希にみる大きな大会でした。

今大会のテーマは、「地域と共に紡ぐ令和老健～豊の国から真価・深化・進化～」であり、今後の老健の担う役割とは何なのか。具体的には、在宅復帰と在宅復帰後の在宅支援。そして地域包括ケアシステム。更には2025年度を見据えた対応と今後の更なる発展についてです。

サブテーマの「真価・深化・進化」は、「真価 (true worth) とは特性や有用性の発揮」、「深化 (deepening) とは積極的な参加による議論の深まり」、「進化 (evolution) とは学ばれた成果の具現化」を示しています。

この事は、まさしく天心堂の中に於ける介護老人保健施設 陽光苑の今後のテーマでもあります。

いま、医療と介護を取り巻く環境の中で大きな一つの要素として2025年の問題があります。「2025年問題」とは、戦後すぐの第一次ベビーブーム(1947年～1949年)の時に生まれた、いわゆる"団塊の世代"が後期高齢者(75歳)の年齢に達し、医療や介護などの社会保障費の急増が懸念される問題を指します。2025年には、高齢者の世帯の約7割を一人暮らし、または、高齢夫婦のみ世帯が占めると見込まれています。中でも高齢者の一人暮らし世帯の増加が著しく、一人暮らし世帯は約680万世帯(約37%)に達するという数値もでています。2025年は後期高齢者(75歳以上)が急増するターニングポイントであり、後期高齢者人口が約2,200万人に膨れ上がり、国民の4人に1人が75歳以上になる計算です。日本で少子高齢化が進んでいることは、今では誰もが承知のことです。実際に、多くの高齢者を数少ない若い現役世代が支えていかなければならず、肉体的、時間的な制約が多くなるばかりか、経済面でも国民に大きな負担がのしかかります。超高

齢化社会となる2025年の医療と介護のあるべき姿は「病院から地域へ」の転換であり、すでに診療報酬改定と医療計画等の見直しによる政策等が実施されています。2025年問題に向け医療政策は大きく変革する予定であり、医療機関にとっては業界を取り巻く外部環境が大きく変わることになります。

2020年度診療報酬改定では、本体(医療)部分を0.55%上げ、薬価を0.98%下げ、全体では0.46%の引き下げることが発表されました。内容には、地域医療構想を進めるため、病床のダウンサイジング(病床数削減)への支援を大幅に強化する事が含まれており、この内容は、2021年度以降についても、法改正によって消費増税による財源を活用した新しい制度を作り、引き続き助成金等によるダウンサイジング支援に取り組むとなっています。

一方、介護報酬改定に於いても、2018年度改定で既に財政的インセンティブ付与の規定の整備として市町村ごとに介護度を下げ及び給付総額を下げた場合、その市町村に給付金が下りるようになりました。問題視すべき点は、市町村では年間の事業計画として、一年間で更新者の介護度を何パーセント下げる。給付総額を何パーセント下げるという目標値を設定し、市町村で立てた目標は、県庁に報告され、大分県全体での数値が集計され、厚労省に集計されます。市町村の目標が達成した場合、市町村に給付金が支給される仕組みとなっていますが、県にも同時に給付金が支給される仕組みとなっており、大分市以外の大野町等では、県からの煽りもあると想定され、非常に厳しい環境となったと考えます。

また、2割負担者のうち所得の高い層の負担割合を3割とするようになり、今回の介護保険法の改定により、全体の3%にあたる12万人の高齢者が該当となります。これ自体による現状の介護保険施設の運営上の問題は、殆どないと予測されます。なぜならば、高額介護サービス費の上限が37,200円から44,400円とされた事にあります。

7,200円上がったとしても、これは、所得が高い人が対象であり、介護保険の利用には、影響は起こらないと想定されます。問題は、2021年度以降の改定から大きく影響を及ぼす事が予測される事にあります。現状の介護保険法では、「所得に応じて、自己負担割合を一割または二割とする」となっていますが、今回の制度改正により、「所得に応じて自己負担割合を一割または二割または三割」となりました。今回、三割という言葉が、介護保険法に含まれています。介護保険法では、その基準は、厚生省令で定めるとなっており、今後、二割・三割の基準所得を下げようとした場合、厚生省令は、厚労省の管轄であり、改定される場合、国会審議が必要ないということとなっています。

医療・介護の取り巻く環境変化の中で今後、更に加速化される医療と介護サービスの併利用が益々増加し、医療介護の融合促進が課題となります。

その様な中で陽光苑は、今後、どのような方向に進むべきなのか。2013年度の強化型老健への移行並びに2018年度の超強化型老健への移行は、結果としての一つと通過点であり、今後の更なる利用者目線でのサービス向上に向けた必要な要素のひとつにすぎません。2012年度の介護報酬改定以降、陽光苑では一つの方向性をもって改革を進めてきました。

具体的には、独立した運営を行ってきた老人保健施設・短期療養生活介護・短期入所生活介護・通所リハビリテーションを利用者の状況に応じて柔軟に対応。「巡回型利用」を進めてきました。へつぎ病院・他法人の病院を退院された利用者を介護老人保健施設で受け入れて1～3ヶ月を目処にリハビリテーション・ケアサービスを実施して機能維持の回復・在宅生活の訓練を行い在宅復帰。この後に通所リハビリテーションに通って機能維

持を図り、時々家族の休息の為に短期入所・短期療養を使用。しかし、徐々に始まるADLの低下が見られた場合には、また、老人保健施設に入所という「巡回型利用」を進めてきました。利用者及び家族は、利用者の状況の変化に伴い施設が変わるたびに不安になる事もなく医療・介護情報は、統一されたITによるシステムに医療・介護情報が共有されており安心と安全が保てます。

2016年度には、通所リハビリでリハビリの終了した利用者の受入や日曜日を利用したい利用者の為に365日稼働のデイサービスを開設。利用者の社会参加と機能維持を促すと共に働きに出る家族のレスパイト目的のニーズに対応してきました。更に2019年度では、有料老人ホームと老人保健施設との「巡回型利用」を行い易いように陽光苑にて有料老人ホーム「光風苑」の運営も行う様に組織変更。

今後、更に加速化される医療と介護サービスの併利用に対して、どの様な対応が陽光苑に求められているのか。まさしく、「真価・深化・進化」であり、老人保健施設の医療と在宅の中間施設としての機能の特性や有用性の発揮。へつぎ病院との連携に向けて、医療ソーシャルワーカーと陽光苑の持つ老人保健施設・短期療養・短期入所・通所リハビリ・デイサービス・有料老人ホーム光風苑の相談員の融合によるリハビリテーション・ケアサービス実施への積極的な参加による議論の深まりによる利用者満足度の向上。これらに対して今後、更に学び、今まで学ばれた成果の具現化に向けて新たな利用者目線での改革が必要です。

これが、今後の医療と介護連携に於ける天心堂の中での陽光苑の担う役割であり、在宅復帰と在宅復帰後の在宅支援。そして地域包括ケアシステム。更には2025年度を見据えた対応になると考えます。



# MRI 装置バージョンアップに関して ～ MRI 装置更新による新機能紹介～

へつぎ病院 放射線科 主任 神野 修児

2019年7月よりへつぎ病院MRI装置をSIEMENS MAGNETOM Avant fitに更新致しました。旧装置ではできなかった最新の撮像法など多くの機能が追加されました。今回のバージョンアップにおいて特に有用性の高いと思われる静音撮像、整形領域の検査、非造影血管撮像等を紹介致します。

## MRI 装置バージョンアップの特徴

装置のバージョンアップとは、ソフトのみの更新で装置を最新の状態に保つことは困難な場合があります。しかし今回のバージョンアップでは、外観から中身のソフトウェア、コイルシステムまで全てが更新されており、最新の検査が行えるようになりました。

MRIシステムは安定した強い磁場を作り出す静磁場システムと電波を送受信するRFシステム、局所的な磁場を変動させる傾斜磁場システムから構成されていますが、従来より静磁場システムは安定性が高く交換する必要性が少ないため、既存の静磁場システムを残したまま、他のシステムを一新する、バージョンアップが可能になりました。これにより、更新による装置の入れ替え期間と費用を抑えることが可能となります。

図1：SIEMENS MAGNETOM Avant Fit 1.5T



## 静音撮像技術

MRI検査では、検査中の騒音により、患者様に不快感を与えたり、場合によっては検査ができない場合もありました。新装置では、騒音の原因である磁場の切り替えをなだらかにし、最適化することで騒音を低減することが可能になりました。全ての撮像ではありませんが、多くの検査で静音撮像を行っています。

## 専用コイルによる画質の向上

コイルとは、MRI検査の画質において最も重要と言っても過言ではない程、重要なもので、画像の質、解像度、検査時間などにも影響してきます。専用コイルを用いることで、感度や安定性が増し、関節や神経など微細な構造の描出が可能になります。

## 血管撮像技術

MRI検査の特徴として、造影剤などの薬剤を使用せずに血管を撮し出すことが可能です。従来の装置でも検査は可能でしたが、新装置では、短時間で広範囲の血管を描出する撮像法（QISS法）が可能になりました。下肢動脈の撮像では従来40分程度かかっていましたが、新装置では最短20分程度での検査が可能になります。

図2：下肢動脈非造影MRA・高感度コイルでの関節MRI





# 第24回大分 PEG・経腸栄養研究会

へつぎ病院 栄養サポートチーム 和田 光代

2019年11月9日へつぎ病院にて第24回大分 PEG・経腸栄養研究会を開催しました。

大分 PEG・経腸栄養研究会は、平成17年から始まり大分県の19施設から構成された研究会です。



今回の研究会は、ハンズオンセミナー（実習研修会）を中心とし、「胃ろうチューブ接続部の規格変更」「胃瘻造設と自己抜去時の対応」「チューブトラブルになりやすい薬剤」「食事介助」「嚥下調整食コード」「半固形態栄養剤の注入法」など医療・介護の場で実際に直面した問題について企画いたしました。



特に、国の方針として2019年12月から変更が開始された、「胃ろうチューブ接続部の新規格」についてのセッションでは、今後、医療・介護現場での混乱が予想される状況を回避すべく大分

県”初”の取り組みとして行い、近隣の医療・介護施設のみならず大分県下から80名を超える多数の方々に参加を頂きました。ご参加してくださった皆様、ありがとうございました。



胃ろう等や、経腸栄養療法でのトラブルやお困りの事がありましたら へつぎ病院 栄養サポートチームへご相談ください。チーム全員で、お待ちしております。



# 障害児デイサービスにおける リハビリ農園の取り組み

天心堂こども発達支援センター 一休さん  
保育副主任 古庄 達彦

現在、一休さんには、小集団での療育支援を必要とする2歳から中学3年生のこども達が通っています。就学前の子ども達が通う幼児クラス（児童発達支援）では、身辺自立を促し、様々な遊びを通してコミュニケーションの力を伸ばす支援を行い、小・中学生の子ども達が通う学童クラス（放課後等デイサービス）では、放課後の時間をリラックスして過ごしながら、学習支援や様々な体験学習を通して社会性を伸ばす支援を行っています。



その中で、今年の4月より「子ども達に、土に触れ、作物を育て、収穫する楽しさを体験してもらいたい」との思いから、新たに農業体験をスタートしました。光輪農園の藤井様や備後地区の広瀬様のご指導・援助の元、畑の土作りから行い、種まきや草取り、管理を実施することで、今日に



至るまでたくさんの無農薬有機栽培の作物を収穫することができました。

福祉と農業は注目されている分野の一つであり、その中で農福連携という考えがあります。高齢化による農業の担い手の減少・障害者の雇用問題を解消できると期待されており、農林水産業は平成27年度から農福連携を取り組もうとする方を対象に補助事業を設けています。



ここでいう農福とは異なりますが、一休さんに通うこども達が、農業を通し、自分の手で作物を1から育てる一連の過程を学ぶ事や、興味を持ってもらう事を目標とし、将来の選定先の一つとして役立つきっかけになればと思っています。さらに今後は、障害分野だけでなく、高齢者のリハビリの一環として、また、地域の方々との交流や、絆を深めていく手段としてリハビリ農園を活用できたらと思います。





# 骨粗しょう症の予防

健診・健康増進センター 保健師 小野 順子

急速な高齢化に伴い健康長寿が重要視されていますが、女性において要介護となった主な原因の約25%は骨折を含む運動器の障害であり、骨粗しょう症予防は喫緊の課題です。

当センターでは2018年度、重点事業のひとつとして「骨粗しょう症予防」を掲げ、同時期に大分市で骨粗しょう症検診補助制度が開始されたこともあり、補助対象となる方一人一人に検査を勧める声掛けをしました。その結果年間30件ほどだった骨密度検査は2018年度189件と大幅に伸びました。過去6年間の受診者572件の結果を分析したところ40歳未満は要治療域が2人(5.7%)に対し、50歳以上は149人(42%)が要治療域でした。

さらに体格指数(BMI)別でみるとBMI18.5以上の普通及び肥満の要治療域は133人(26%)に対し、BMI18.5未満のやせの要治療域は31人(52.5%)でした。このことから健康長寿には①適切な食事と運

動で適性体重を維持し、②閉経前後には骨粗しょう症検査を受け予防意識を高めることが重要です。

## 骨粗しょう症健診

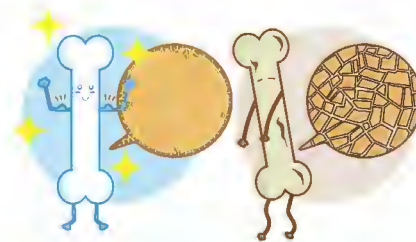
骨密度を測定してみませんか？

骨粗しょう症で骨折しやすい部位の骨量が測定できる全身型骨密度測定装置です。

費用は、通常 3,888円

骨粗しょう症検診補助制度利用 500円です。

【対象】大分市民の女性で、今年度40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳になられる方



## 骨密度測定装置 PRODIGY-PRIMO-C



従来非常に時間のかかった腰椎、大腿骨の多部位測定が5分程度で終了し、非常に感度の高い腰椎正面、大腿骨を測定することにより全腕骨の測定では検知できなかった骨の減少を確認することができます。

被ばく線量も一般胸部撮影の10分の1程度と低被ばくとなっていますので、安心して検査を受けていただけます。

## 骨粗しょう症外来

- ・身長が縮んだ
- ・腰の曲がり気になる、
- ・腰が痛い
- ・健診で骨密度の低下がみられた



など気になる症状があればお気軽に「骨粗しょう症外来」を受診ください。

診察日 予約制  
(へつぎ診療所外来受付またはお電話にてお問合せ下さい)

TEL :097-597-5551

担当医 神宮 博子

# 小児外来リハビリテーション

2019年6月から言語聴覚士による小児外来リハビリテーションを開始しました。

言語聴覚士は「話す」「食べる」「飲む」など、口に関わる発達やコミュニケーション能力を促す為のリハビリを行っています。現在「ことばの遅れ」や「吃音」、「言いにくい音がある」などの相談があり、個別訓練を行っています。小児科の医師による診察や臨床心理士による発達検査も実施し、各職種で連携を取りながら行っています。2歳半～6歳のお子さんを対応しており、学童期のお子さんの相談も受けています。

訓練ばかりではなく遊びを通してコミュニケーションを行うなど楽しく訓練できるよう行っています。

へつき病院のホームページにパンフレットを掲載していますので、是非ご覧下さい。

気にかかる事等お気軽にご相談下さい。



## 問い合わせ先

**へつき病院**  
リハビリテーション科  
本室、阿南、水津  
097-529-5611



## 地域連携相談部

みなさん、「地域連携相談部」をご存じですか??

へつき病院の「地域連携相談部」は、患者さんがスムーズに受診・入院できるように、また、住み慣れた地域へ退院できるように、医療機関、介護施設をはじめ、行政や福祉に関わる多くの施設との「つなぐ役割」を担っています。

主なスタッフは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）、リハビリスタッフになります。

外来診察や、入院・退院のこと、福祉制度や施設の利用法等でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談下さい。

天心堂へつき病院 地域連携相談部	
直通 電話 /FAX	電話：097-597-5812 FAX：097-597-3667
受付時間	8：30～17：30（土日・祝日を除く）
場 所	へつき病院 2階 カフェテリア前